

平成 21 年度社会参画活動育成事業報告書

1 事業の概要

(1) 事業名（業務名）

『春日井市勝川駅前商店街「弘法市」において「多文化ふれあい文化祭」とフィリピン人の若い母親のための「子育て自立支援連続講座」開催ーフィリピン人による持続可能な多文化共生まちづくりとフィリピン人と日本人の助け合いネットワークづくりに向けてー』

(2) 事業の目的・概要

フィリピン人移住者の若い母親たちとその家族を対象とした子育て支援と母親の自立支援講座及び勝川駅前商店街「弘法市」において「多文化ふれあい文化祭」の開催等を通じて、日本人夫を含めて、持続可能な多文化共生のまちづくりの担い手となるようにする。

- ① 勝川駅前商店街「弘法市」において「多文化ふれあい文化祭」を開催する。
- ② 子育てと母親の自立支援するための連続講座（5回以上）を開催する。
- ③ ②の連続講座の報告・討論等を基に編集した「若い母親のための生活マニュアル」（英語・タガログ語・日本語）を作成・配布する。

(3) 受託団体の概要

本会は、中部・日比助け合いネットワーク（SALVIFIC）と称し、フィリピン移住者および彼女たち、彼らをサポートする日本市民が、ボランティア活動を通して、自由で持続可能な春日井などのまちづくりに参画することを目的としている。

上記の目的を達成するために以下の活動を行う。

- ① フィリピン移住者の能力開発を推進し、エンパワメントするための諸活動
- ② フィリピン移住者が、各自の問題を自覚し、日本人市民と協力して、春日井などの市民社会の自由で持続可能な多文化社会の形成に貢献するための諸活動
- ③ フィリピン移住者が母国の自由で持続可能な発展に寄与するための諸活動。
- ④ 春日井などに居住するフィリピン移住者が家庭内あるいは近所付き合いで抱えている諸問題について相談に応じる諸活動。
- ⑤ 調査・研究、出版によってフィリピン移住者自身の問題や意向を日本市民に理解してもらうための諸活動。
- ⑥ 上記の目標の達成に役立つその他の諸活動。

これまでの主な活動

・2006年9月ー現在

毎月第3土曜日に開催「勝川駅前商店街・弘法市」に羽後ゼミと協力して出店参加。

・2007年3月

「弘法市」において第1回かすがい多文化共生ふれあい文化祭を企画・開催（春日井市共催事業）

・2008年5月

第1回 DAWN（日比国際児<JFC>を支援するフィリピン NGO）

「フィリピンこどもミュージカル・あけぼの愛知公演2008」を企画開催

・2008年10月

春日井市政65周年事業の1つである「高蔵寺フォークジャンボリー」に出店フィリピン料理を紹介

・2009年5月

第2回 DAWN（日比国際児<JFC>を支援するフィリピン NGO）

「フィリピンこどもミュージカル・あけぼの愛知公演2009」を企画開催

2 事業の実施状況（実施期間、実施場所、実施体制、参加者（対象者）、準備作業、事業の具体的内容等）

実施期間 2009年8月—2010年3月

実施場所 春日井市東部市民センター、春日井市藤山台集会所等

事業名 『フィリピン人の若い母親のための子育て自立支援連続講座』

【第1回】 子育てと子供の健康（参加者数 35名）

実施日 9月27日 14:00—17:00

実施場所 春日井市東部市民センター

講師 片山道弘（片山こどもクリニック院長）

学生によるインフォメーション

1 病院の利用方法

【第2回】 子育てと日本の地域コミュニティへの統合

—20年以上日本に住んだ経験から—（参加者数 30名）

実施日 11月15日 14:00—17:00

実施場所 春日井市東部市民センター

講師 スーザン・ラセット（APO代表）

学生によるインフォメーション

1 ビザを取得してからの流れ—外国人登録について

2 日本で仕事をするには

【第3回】 母親たちが抱える問題 (参加者数 30名)

実施日 11月21日 14:00-17:00

実施場所 春日井市東部市民センター

講師 野田葉子 (弁護士)

【第4回】 パソコン教室 (1) (参加者数 15名)

実施日 11月24日 14:00-17:00

実施場所 春日井市藤山台集会所

講師 今西寛 (NPO法人けやきフォーラム)

パソコンの立ち上げと基本操作

【第5回】 パソコン教室 (2) (参加者数 15名)

実施日 1月31日 14:00-17:00

実施場所 春日井市藤山台集会所

講師 今西寛 (NPO法人けやきフォーラム)

ワードの使い方

【第6回】 小学校での生活と親の役割:入学から卒業まで (参加者数 24名)

実施日 2月14日 11:00-13:00

実施場所 春日井市藤山台集会所

コーディネーター 加藤アンナ、羽後静子

学生によるインフォメーション

1 小学校の年間行事について

【第7回】 パソコン教室 (3) (参加者数 10名)

実施日 2月28日 14:00-17:00

実施場所 春日井市藤山台集会所

講師 今西寛 (NPO法人けやきフォーラム)

チラシ、ポスターの作り方

事業名 『若い母親のための生活マニュアル』

「フィリピン人の若い母親のための子育て自立支援連続講座」を基に編集した『若い母親のための生活マニュアル』(別添)を1,000部作成し、フィリピン人を始めとする外国籍市民、自治体、NGO、中部大学の学生を始めとする学生、その他日本人市民等に配布した。

事業名 『多文化ふれあい文化祭』 (参加者数 70名)

実施日 2010年8月15日 16:30-21:00

実施場所 春日井市勝川駅前公園 (JR 勝川駅北口)

第4回 納涼音楽祭の中で開催

春日井勝川駅前商店街「弘法市」開催時に同地区において、サルビフィック+中部大学羽後ゼミが、フィリピンと日本の歌と踊りを披露

3 事業の実施による効果

各事業の実施により、フィリピン移住者が、各自の問題を自覚し、日本人市民と協力して、春日井などの市民社会の多文化社会の形成に貢献した。

フィリピン移住者が春日井市民としての意識を高め、商店街などでの交流やパソコン教室を通じて、日本人市民との相互理解を深めた。

フィリピン移住者が日比混血児の問題などを手掛りにして、母国の持続可能な発展に寄与した。

「若い母親のためのワークショップ」などを通じて、春日井などに移住するフィリピン移住者が家庭内あるいは近所付き合いや子どもの学校で抱えている諸問題について、自分たちの間で問題解決の道をさぐり、これに日本人市民が協力する体制がつけられた。

特にフィリピン人女性が母親として直面する諸問題について先輩が後輩に教える体制をつくりつつ、夫をはじめとする日本人市民との間で問題が起こることを回避し、起こった場合にもこれに対処できるような能力を与えた。

4 事業の実施に要した経費（経費の区分ごとに内訳を記入すること。）

人件費：110,000円（講座実施業務（通訳、翻訳、編集業務を含む）；100,000円＝5,000円×2時間×1日×10人 ふれあい文化祭担当業務；10,000円＝1,000円×5時間×1日×2人）

講師謝礼：70,000円（10,000円×7回）

物品費：70,000円（オリジナルTシャツ制作、100枚分）

通信費：9,700円（電話代；4,850円 郵便代；4,850円）

使用料：28,000円（会場費；4,000円×7回）

印刷費：150,000円（ちらし作成；30,000円 報告書作成；120,000円）

積算合計：437,700円

5 事業の継続・発展の見通し、今後の課題等

若いフィリピン人の母親のためのセミナーには、臨月近い妊婦や生後1か月の乳児を連れた母親も父親といっしょに参加するなど、各回とも好評であった。「小児科医に、日ごろ子育てで悩んでいる問題に直接回答してもらい安心した」「弁護士に、父親認知や養育費、離婚相談、雇用問題について回答してもらい日本の法律や裁判費用について理解できた」「日本で20年以上も仕事をしているフィリピン女性の経験を聞くことができ、日本での年金の取得方法など知らなかったことが多く、とても参考になった」などの感想が寄せられた。またパソコン教室は、パソコン技術習得と日本語習得の一石二鳥ということで、受講者の要望に応じて1回の予定が3回開催となった。このような支援のためのセミナーは、今回限りの活動ではなく、新しく春日井市などに転入するフィリピン人移住者の要望に合わせて継続していきたい。今回の事業実績を踏まえて、新年度は、中部大学産業経済研究所プロジェクト「〈神話の創造〉〈新しい担い手〉と商店街活性化に向けた持続可能なまちづくり(研究代表羽後静子 国際関係学部准教授)」において、多文化共生の視点からの新しい担い手として研究調査に参加する。具体的には、SALVIFICのメンバーの出身の地域と勝川地域をつなぐ取引ネットワークの可能性を探るため、現地調査を行い、フェアトレードできる商品開発を検討する。さらに商店街と市民組織が主体となって勝川地域を中心に東尾張地域SNSを活用した新しいコミュニティづくりを試験的にスタートさせることになり、それへの参加も検討している。地域のコミュニティを再構築するには、既存のネットワーク(町内会組織等)と、SALVIFICのような外国籍市民の移住者団体との協働により、地域の融合を図り、多文化共生に向けた協力体制を推進することができる。今回愛知県の委託事業を受けることで実施したフィリピン女性たち自身が多文化共生のまちづくりに参画する自覚と日本社会でこのようなプロジェクトを責任をもって企画、立案、実施することで自信をもつことができた。今後も勝川駅前通り商店街でおこなっている活動は、同商店街の発展とともに、また将来その他の商店街や地域での多文化共生まちづくりのモデルになるよう継続して活動していく予定である。

6 その他参考事項

セミナーで使用したパワポ資料別添

